

平成 29 年度

地域医療学講座

年報

— 第 9 号 —



愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

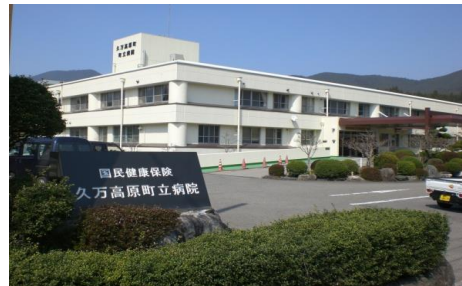


西予市立野村病院

〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938



久万高原町立病院

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

目 次

- 地域医療学講座の取り組み
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一 1
- 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 准教授 熊木 天児 2
- 学外講師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 地域医療教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 第7回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 地域医療学 医科学研究 基礎配属学生の取り組み・・・・・・・・7
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 総合診療科（地域医療学）専門研修・・・・・・・・・・・・11
- 第17回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・・・・・13
- 初期研修・後期研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 総合診療専門研修プログラム・・・・・・・・・・・・ 河野 佑典 19
赤瀬 太一 21
- 総合診療科としての取り組み・・・・・・・・・・・・総合診療科 助教 菊池 明日香 23
- 平成29年度地域医療学講義・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 平成29年度地域医療ワークショップ・・・・・・・・・・・・25
- 第5学年臨床実習班別名簿・・・・・・・・・・・・・・・・26
- 業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
- その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
- マスコミ取材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

地域医療学講座の取り組み

地域医療学講座 教授 川本 龍一

地域医療学講座は、平成 20 年度から開設期間を設定された寄附講座ですが、今回 2 回目の講座延長が決定し、平成 30 年度 4 月からさらに 5 年間継続されることになりました。一重に各方面からのご支援の賜物と感謝申し上げます。おかげさまで当講座は 10 年の活動を経て、これまで講座が目標として掲げてきた 3 つの方針、すなわち地域医療機関、特に医師不足地域での学生の地域医療実習、地域での診療支援、そして研究活動について、少しずつ成果が出てきております。

県内は、尋常でない速さで少子高齢化が進んでいます。我々が活動している西予市や久万高原町ではすでに高齢化率が 50%に達している地区も少なくはありません。また子供の出生が年間ゼロの地域もあります。へき地の小学校は閉校し、中心地にスクールバスで子供たちを集める施策が進んでいます。医療の分野においても、我々が活動している西予市立野村病院では病床数の削減、地域包括ケア病棟の設置による在宅医療へのシフト、医師の負担を減らすための救急患者に関する役割分担など、新たなシステムが導入されつつあります。へき地診療においても西予市では当該地区の患者数の減少により赤字が膨らむ診療所は閉鎖が検討され、平成 30 年 8 月からはその代わりとして診療車による巡回診療が予定されています。診療車には診察机や診察台、超音波装置、血液検査機器、AED などが備え付けられ、診療所に劣らない設備で災害時にも対応できる取り組みが始まります。

さて、学生に対する教育については、我々が担当している様な地域医療実習が今後も大幅に増えていくことが決まっています。現在、地域医療学講座では久万高原町立病院、西予市立野村病院、宇和島市立津島病院の 3 か所で学生実習を行っており、施設関係者の皆様には大変お世話になっています。いずれの施設も地域中核病院として介護保険関連施設と連携しながら地域包括ケアを実践しており、超高齢社会の医療を学ぶには最適な施設と考えています。学生は参加型の実習を求めています。医師のみならず地域で活動している様々な職種の方の役割を身をもって体験し、問題意識を養い、将来への動機づけを図ることが重要です。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

最後に、地域での研究活動ですが、現在講座には 3 名の大学院生が所属し、研究活動を行っています。それぞれ地域の病院で勤務しながら臨床研究を行っています。また、学部 1 年生の時期から基礎配属制度が導入され、希望の講座に所属しながら研究活動を行う制度もあり、当講座には、本年度は新規 6 名＋継続 2 名の所属が決まっています。現在当講座では、地域住民の動脈硬化症に関するコホート研究や学生の地域志向性尺度開発の研究を継続しており、愛媛大学 COC 地域志向教育研究経費や科研費の採択により予算を得ています。

今後ともよろしくご指導とご協力のほどをお願い申し上げます。

久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動

地域医療学講座 准教授 熊木 天児

久万高原町サテライトセンターでの活動も9年目が終了しました。例年同様、病院の敷地内で宿泊しながらの実習を行っています。地域医療学講座に赴任してから4年が過ぎ、久万高原での臨床実習以外の課外活動に取り組んでおります。従来との活動とあわせてご報告致します。

1. 臨床実習

A. 週間予定

	午前	午後
月曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 外来見学 (OSCE) ・ 院内紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来実践 (問診、OSCE) ・ プライマリ・ケア学習道場：症例振返 ・ 病棟患者紹介 (内科2例、外科1例)
火曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来看護実習 (採血練習) ・ 生理検査室実習 ・ 放射線部実習 ・ 病棟回診
水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟看護実習 (血圧測定) ・ 検査見学・実習 (エコー・内視鏡) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携視察選択実習 (保健センター、地域包括支援センター、在宅支援センター) ・ リハビリ室 ・ 病棟回診
木曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域消防・救急実習 ・ 介護実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父二峰診療所1名 ・ 訪問診療2名 ・ 病棟回診
金曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来実践 (問診、OSCE、カルテ記入) ・ プライマリ・ケア学習道場：症例振返 ・ 外来看護実習 (採血実践本番・測定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生理検査室：採血持参・検査測定 ・ 病棟回診 ・ まとめ：症例提示、課題発表

赴任以来、月曜日・金曜日は熊木が担当し、火曜日～木曜日は院内スタッフに大変お世話になっておりました。従来の実習内容は、学習効果が上がると言われている、変化に富むものであり、概ね好評でした。しかし、「地域包括ケア」、「在宅支援」、「予防医学」がますます注目されることを鑑みて、さらに充実した実習内容となるためにもマイナーチェンジを行いました。具体的には、病棟看護実習 (血圧測定) およびプライマリ・ケアにおける検査 (内視鏡、エコー) の時間を短縮し、地域消防・救急実習 (消防士・救命救急士による講和ほか) および地域連携視察実習 (保健センター、地域包括支援センター、在宅支援センターほかでの実習) を取り入れました。地域連携視察実

習では、現場のスタッフの皆様にご負担がかかりすぎないように、班員全員で出向くのではなく、選択式としました。その結果、班員同士でそれぞれが学んだことを話し合い、シェアする習慣がつかえました。このことは、単に実習としての学習効果ではなく、他人にどのように分かりやすく伝えるかを学ぶ良い機会にもなっております。すなわち、**teaching is learning** としての学習効果も上がっていると考えられます。なお、昨年度からのマイナーチェンジの際には、提案して下さいました大政さん、和田さん、そして各現場の皆様にご大変お世話になりました。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

さて、本実習は大学病院の臨床実習と趣きが全く異なり、例年通り実習期間の延長を望む学生がほとんどです。臨床実習期間については全国的に見直されており、平成 28 年度入学の学年から実習期間が 72 週に延長されます。それに伴い、地域医療実習も延長されるものと思われます。現在の医学生には、**CBT**（医学的知識を問う国家試験の予備テスト）および **OSCE**（身体診察の実技試験）が課せられ、臨床実習が開始される前の進級の条件となっております。これらの知識、技術を活かすためにも、私の担当日は診察しながらの指導となっており、病歴聴取、鑑別診断、検査計画と一連の流れを実習生に実践してもらっております。これまでの学習が臨床の現場で活かされるということを成功体験してもらえようように努めております。

B. 実習課題：例年通り、下記課題を与えております。

a) 実習レポート：毎日付けている記録をもとに、実習を通して感じたことをまとめてもらっています。将来の地域医療を担う世代の思いが伝わって来る、読み甲斐のあるレポートが数多く見受けられます。彼らにある実習直後の熱い思いが将来の地域医療をより良いものに変えてくれることを願ってやみません。私自身にも新発見があり、毎回レポートの届くのが楽しみです。

b) 病棟症例実習・検討会：内科系 2 例、外科系 1 例を 3 人で担当し、疾患のみならず、周辺的生活環境、家庭環境などにも気を配るようにメッセージを発信しております。すなわち、医学だけに注目するのではなく、医療全体を理解する必要性を説いております。本実習においては、松木先生を始め常勤の先生方にはいつもお世話になっております。

c) **Power Point** 発表会：本年も「田舎では最新の医療に取り残されていく」という先入観を払拭するためにも、**common disease** および症候学に関するスライド発表を継続しております。具体的には、内科外来マニュアルを中心に教材に自由にテーマを選んでもらい、まとめてもらっています。その他、**In the Clinic**、総合診療アップデート、**Medical Tribune** を教材として使用しております。

2. 課外活動

夏休み中、久万高原町立病院へは初期研修医 1 名が年休を利用して来院（8 月 21 日）、済生丸巡回診療へは 5 年生 1 名、3 年生 1 名が同行（8 月 22 日）しました。冬休みには 4 年生 2 名がクリスマス当日に久万高原へ来院し、プライマリ・ケア診療を経験しました。

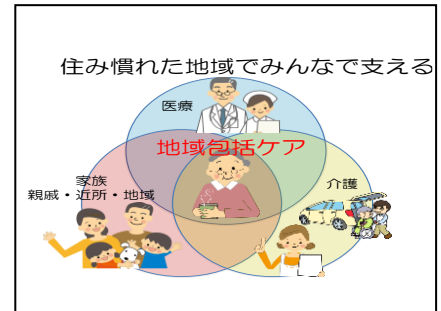
今年度も大きな問題がなく活動ができました。久万高原町立病院のスタッフおよび関連施設、行政の関係者の方々にはこの場を借りて感謝申し上げます。引き続き御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

学外講師

「高齢者医療と福祉—求められる医師像—」(2017年10月26日、東温市)

綾川町国民健康保健陶病院院長 大原 昌樹先生

大原先生ご自身が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えながらわかり易く解説していただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。



「家庭医によるタバコフリー活動」(2017年11月2日、東温市)

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

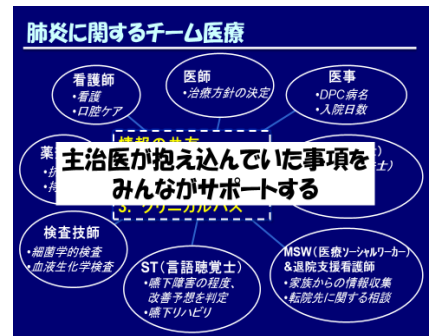
たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすくご講義いただきました。いつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿に先生の熱意と熱い息込みが伝わる講義でした。



「地域医療における病院運営と高齢者ケア」(2017年12月1日)

済生会松山病院院長 宮岡 弘明先生

済生会松山病院での幅広い取り組みについてご紹介いただきました。離島医療についても定期的に取り組み、離島：釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。さらには地域医療を担う医師養成として、総合診療のマインドを持った専門医を養成する取り組み、ER 中心の病院(忙しすぎる)のメリットを生かしたローテート方式についてもご紹介いただきました。



「地域医療における心のケア」(2017年12月22日、東温市)

愛媛県立新居浜病院副院長 山岡 傅一朗先生

中島産のミカンを用いて、代表の学生が問診を行いました。病期の流れの中で過去から未来へ、問診と観察、さらには推察の重要性について、山岡先生ならではのユニークな講義でした。



第7回中四国地域医療フォーラム

第7回中四国地域医療フォーラム

日時:平成29年2月25日(土) 9:00~15:00

会場:ホテルクレメント徳島 3階 金扇
(〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61 TEL:088-656-3111)

参加費:1,000円(昼食代として)

プログラム:

8:30	受付開始
9:00	開会挨拶 苛原稔(徳島大学 医学部長) 永廣信治(徳島大学病院 病院長) 本会の概要説明 谷憲治(徳島大学大学院 総合診療医学分野 特任教授)
9:10~	各大学からの事例紹介・報告「地域医療に貢献する医師確保に向けて」
	①9:10 鳥取大学 地域医療学講座 准教授 浜田紀宏 先生
	②9:20 島根大学 地域医療支援学講座 教授 谷口栄作 先生
	③9:30 岡山大学 地域医療人材育成講座 教授 佐藤勝 先生
	④9:40 広島大学 地域医療システム学講座 教授 竹内啓祐 先生
	⑤9:50 山口大学 医療人育成センター 准教授 宮崎睦子 先生
	⑥10:00 香川大学 地域医療教育支援センター センター長 松原修司 先生
	⑦10:10 愛媛大学 地域医療支援センター 副センター長 高橋敏明 先生
	⑧10:20 高知大学 家庭医療学講座 教授 阿波谷敏英 先生
⑨10:30 徳島大学 総合診療医学分野 特任教授 谷憲治	
10:40	「関東出身の医学生が徳島の地域医療に進んだ一例」 亀田ファミリークリニック館山 家庭医診療科 医員 河南真吾先生
10:50	休憩
11:00	グループ討論(ランチョン形式)
13:00	グループ発表・全体討論
14:45	まとめ
15:00	閉会挨拶



地域医療学 医科学研究 基礎配属学生の取り組み

講座主任のことば

地域医療に関する研究は、地域医療の現場での体験が重要であり、その中でこそ地域医療の研究課題を描くことが可能となります。中山間地域や離島などへき地を多く抱える愛媛県においては、郡部や島嶼部を中心とした少子・高齢化の著しい進行や世帯構造の変化に伴い、疾病の複雑化、要介護者の増加及び生活習慣病の増加等、県民の保健・医療に対するニーズも多様化・複雑化しています。これら課題に対応するため、現地のニーズに即した地域医療に関する研究を行うことを目指しています。

学生指導医の担当者リスト

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

川本龍一（教授）〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

TEL:0894-72-0180 FAX:0894-72-0938 e-mail: rykawamo@m.ehime-u.ac.jp

熊木天児（准教授）〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65（久万高原町立病院）

TEL:0892-21-1120 FAX:0892-21-1121 e-mail: terukuma@m.ehime-u.ac.jp

研究室の研究内容

地域における健康維持、疾病分析、治療に関する臨床疫学的調査研究：愛媛県内の地域における臨床疫学的調査を実施し、効果的な手法の開発により地域社会の生活のレベルの向上と住民全体のQOLの向上を図る。

内容

限られた医療資源の中で診断・治療を行う必要があることから、以下のテーマ等についての調査研究を実施し、その成果を地域医療に還元する。

例・風邪などのありふれた健康問題に関する研究

- ・慢性的な症状に対する研究
- ・高齢者のADLやQOLに関する研究

方法

地域サテライトセンターを中心にフィールドワークを展開し研究にあたる。

医科学研究学生への指導方針

愛媛大学医学部地域医療学講座地域サテライトセンターにて地域住民を対象とした地域医療実習を行いつつ、研究テーマについて現地のスタッフと共に調査研究を行う。

学生の研究内容

- ・樋口 希、宇都宮志織、菊地聡太、須之内真琴、升 瞳碧、西田瑞希：地域医療実習
- ・山手敦史：山間地域における終末期医療に関する意識調査
- ・柳原千秋、本田遼佑：地域診断

所属する医科学研究学生：1年生6名、3年生1名、4年生1名（+2名）

所属学生による感想

近年高齢化が進む中、地域では医師不足や医療崩壊が危惧されています。そのような地域医療に興味があり実際に現場を見て学びたいという思いから、大学の授業カリキュラムの一環である基礎配属で私たちは地域医療学講座に所属しています。地域医療学講座の西予市地域サテライトセンター（西予市立野村病院）で実習し、外来・訪問診療・介護施設訪問・カンファレンスなどを通して、私たちは地域医療の現実を目の当たりにしました。総合医になるために必要な能力や勉強、医師に限らず医療従事者が不足している地域病院での多職種連携の重要性を強く感じました。一方で地域でも出来る事は多くあることを学び、そこで様々なワークショップやサテライトセンターを利用したテレビ会議勉強会、EBM勉強会などを積極的に行い、地域に根付いた課題について各自テーマを持ち研究に取り組んでいます（第13回愛媛プライマリ・ケア研究会での抄録より）。

医科学研究学生発表演題リスト

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2017年5月13-14日、高松市）

- ・山間地域における終末期医療に関する意識調査
山手敦史、川本龍一、二宮大輔、熊木天児

第17回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2017年11月18-19日、南国市）

- ・愛媛大学医学部1年生基礎配属学生の学びに関する報告
樋口 希、宇都宮志織、菊地聡太、須之内真琴、升 瞳碧、西田瑞希、二宮大輔、千崎健佑、熊木天児、笠井誉久、赤瀬太一、楠木 智、大塚伸之、川本龍一



愛媛県主催医学生サマーセミナー

【日 時】 2017年 8月 19日 (土) 12時 30分～16時 45分

【場 所】 県庁第一別館 11階会議室

時 間	内 容
12:00～12:30 (30分)	受付
12:30～12:35 (5分)	開会挨拶 医療対策課長
12:35～13:10 (35分)	《テーマ》(各市町 8分程度) 「各市町の現状・施策について」 ・新居浜市 ・久万高原町 ・宇和島市 ・松野町
13:10～13:35 (25分)	司会 愛媛県立南宇和病院内科部長 村上 晃司先生
13:35～14:00 (25分)	研修医報告：地域卒卒業生 河野 佑典先生 自治医大卒業生 窪田 真志先生
	学生が研修医や諸先輩方と交流できる時間 (休憩も兼ねる)
14:00～14:05 (5分)	ワークショップの進め方の説明 進行 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生
14:05～16:00 (115分)	ワークショップ 《テーマ》 愛媛の地域医療を担うために「医療から見たまちづくり」 各班の課題 「各参加市町の医療から見たまちづくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容を参考にグループ討論 ・ 8班(5人程度)に分かれて意見交換 ・ 30分で各担当テーマのまとめ
16:00～16:45 (45分)	討論発表
16:45	閉会挨拶 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生

対象となった参加市町村

2015年度: 四国中央市、久万高原町、八幡浜市、愛南町

2016年度: 西条市、西予市、愛南町、愛媛県

2017年度: 新居浜市、久万高原町、松野町、宇和島市



ワークショップ前後のアンケート結果(有意な変化をみた項目)

- ・地域医療には夢がある。 P<0.001
- ・将来、幅広い領域を扱う医師になりたい。 P=0.020
- ・当該地域の医療に対する興味がある。 P=0.014
- ・当該地域の医療に対する正しい知識がある。 P=0.003
- ・当該地域の健康課題を認識している。 P=0.001
- ・当該地域の課題に対する介入方法を認識している。 P<0.001
- ・将来は、ライフワークとして大きな総合病院で働きたい。 P=0.011
- ・地域診断のような活動は意義ある。 P=0.020



研修医報告



地域枠卒業生 河野 佑典先生



自治医大卒業生 窪田 真志先生

各市町の現状・施策について



新居浜市



久万高原町



宇和島市



松野町

総合診療科（地域医療学）

総合診療科の紹介

総合診療科とは、専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、全人的に人を捉え、特定の臓器や疾患に限定せず多面的に診療を行う部門です。また、外来初診の「症状」のみの患者に迅速かつ適切に「診断」をつける科でもあります。さらに、地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。総合診療科では、地域に根付いた教育と研究、診療活動を行いうる総合診療専門医の育成を目指しています。

プログラムの目的と特徴

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身に付けるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給料を保障しています。
11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 Faculty Development を重視しています。
12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「総合診療科専門研修コース」と臨床経験5年以降の「地域医療生涯研修コース」を用意しています。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

経験目標

本コースは、地域医療を担う医師を養成するためのコースです。地域医療を担う医師には、一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患への対応のほか、訪問診療などの在宅医療や介護保険への関わり、健康診断、予防接種、健康増進と疾病予防、学校医や産業医活動など多岐

にわたる対応が求められます。大学病院ならびに地域医療を学べる関連医療機関を1~2年間ローテートしながら、住民のニーズに応じた健康上の問題を中心とした保健・医療・福祉などのあらゆる地域における要望に対応する技能の修得を目標としています。当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、幅広い分野の人々と協働できることを目標としています。

指導医や指導体制（講座構成員）

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、米国内科学会上級会員（Fellow）、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- ・熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- ・二宮大輔（助教：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医）

研修に関する行事

月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康教室、木曜日：訪問・地域連携カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

新専門研修プログラムについて



総合診療専門医養成		初期診療が地域で幅広く求められる領域であることの説明			施設基準		
連携予定施設名	病床数（※2）	二次医 療圏名	所在地	総合診療 I	総合診療 II	内科	
1 HITO 病院	257	東予	四国中央市			○	
2 県立新居浜病院	313		新居浜市			○	
3 十全総合病院	350		新居浜市	○			
4 住友別子病院	359		新居浜市			○	
5 済生会高松病院	150		高松市			○	
6 西条市立尚愛病院	185+精神 165		西条市			○	
7 県立今治病院	270+精神 50		今治市			○	
8 済生会今治病院	191		今治市			○	
東予地区の医療を担う機関。HITO 病院と済生会今治病院は臨床研修指定病院である。県立新居浜病院は、同圏域の2から3次医療を担っており、他の施設は地域のニーズに応じた1から2次医療を担っている。							
9 愛媛県立中央病院	827	中予	松山市			○	
10 松山市民病院	432		松山市			○	
11 松山赤十字病院	650		松山市			○	
12 済生会松山病院	199		松山市			○	
13 愛媛医療センター	430		松山市			○	
14 久万高原町立病院	77		久万高原町	○		○	
中予地区（松山市・久万高原町）の医療を担う機関。久万高原町立病院以外は、同圏域の2から3次医療を担っており、臨床研修指定病院である。久万高原町立病院は久万高原町における1から2次医療を担っている。							
15 市立大洲病院	150	南予	大洲市			○	
16 市立八幡総合病院	256		八幡浜市			○	
17 西予市立野村病院	109		西予市			○	
18 市立西予市民病院	154		西予市	○		○	
19 市立宇和島病院	435		宇和島市			○	
20 KHIO 宇和島病院	199		宇和島市			○	
21 宇和島市立津島病院	133		宇和島市			○	
22 愛媛県立南宇和病院	199		愛南町			○	
23 愛南町立国保一本松病院	60		愛南町			地域医療	
南予地区の医療を担う機関。市立宇和島病院は臨床研修指定病院であり、同地区の2から3次医療を担っている。他の施設は地域のニーズに応じた1から2次医療を担っている。							

25 伊方町国保瀬戸診療所、26 松野町国保中央診療所、27 愛南町国保内海診療所は地域医療として連携。

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6~9年
研修内容	初期臨床研修（2年）		総合診療科・内科中心の研修（3年）			自由研修（1~4年）
研修施設	臨床研修病院		地域中核病院、地方病院 診療所			希望医療機関 地域中核病院、地方病院、診療所
資格			総合診療科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医			希望に応じた専門医

専門研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学等を予定

専門研修の問い合わせ先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療学講座）

<https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/community.med/> Tel: 0894-72-0180 Fax: 0894-72-0938

第17回愛媛プライマリ・ケア研究会

【開会挨拶】かとうクリニック：加藤 正隆先生

【一般演題 1~3】16：00-16：30（テーマ：症例報告・臨床推論）

座長：愛媛県立中央病院総合内科部長 杉山 圭三先生

演題1 「痛風を30年放置するとうなる。」

愛媛生協病院

水本 潤希先生

演題2 「激しい後頸部痛と嚥下時痛があるのに、髄膜炎でも咽後膿瘍でもない。」

愛媛生協病院

原 穂高先生

演題3 「穿孔性腹膜炎の1剖検例」

済生会松山病院 臨床研修センター

藤岡 耀祐先生

【一般演題 4~5】16：30-17：00（テーマ：総合診療・総合内科）

座長：愛媛県立南宇和病院内科部長 村上 晃司先生

演題4 「愛媛大学医学部附属病院における総合診療科外来の現状」

愛媛大学医学部附属病院総合診療科

千崎 健佑先生

演題5 「総合内科医による「ヒフミルくん」の活用とその有用性」

愛媛大学医学部地域医療学講座

熊木 天児先生

【事務連絡】17：00-17：10

愛媛大学医学部地域医療学講座准教授

熊木 天児先生

【特別講演1】17：20-18：00

座長：愛媛十全医療学院附属病院副院長

高原 完祐先生

「プライマリ・ケアにおける肥満治療について」

愛媛大学医学部地域生活習慣病・内分泌学講座教授

松浦 文三先生



【特別講演 2】 18 : 00-19 : 00

座長：愛媛大学医学部地域医療学講座教授
「医師の偏在、広島大学での地域診療教育」

川本 龍一先生

広島大学大学院医歯薬保健学研究院地域医療システム学講座教授 松本 正俊先生

特別講演では、広島大学大学院医歯薬保健学研究院 地域医療システム学講座教授の松本正俊先生をお招きしました。先生は、広島大学医学部において総合診療科外来を担当する一方で、地域医療マインドの養成に努められておられる先生です。以前、へき地に努める医師の背景を明らかにした研究は、私も何度か引用させていただいた興味深い内容の論文です。最近では産科医療の集約化に関する研究や画像診断機器と放射線科医の分布に関する研究、さらには全国大学の地域卒出身の医師および都道府県奨学金受給医師の進路を追跡するコホート研究を行っています。医師の偏在の現状とその要因について先生の調査データを用いて詳しくご紹介いただきました。



初期研修・後期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

初期臨床研修 2年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学病院 2名、松山赤十字病院 5名、愛媛県立中央病院 3名、済生会今治病院 1名、自治医科大学病院 7名

初期臨床研修 2年目の地域医療研修の感想

戸代原研修医（2017/5/1～26）

終末期の医療をみることで、医療の在り方を考えさせられました。また、訪問診療を通して、医学だけではなく患者さんのバックグラウンドを考えたり社会的問題について対処する必要性なども学びました。

あっという間の研修でしたが、とても過ごしやすい3週間でした。ありがとうございました。

盛田研修医（2017/5/1～30）

入院から退院までの方針決定について積極的に介入することができました。先生方の熱心な指導のもと、いろいろ質問でき、フィードバックもしっかりしていただきました。

スタッフの皆さんにも大変お世話になりました。また、機会をつくって野村町に来たいと思います。短い期間でしたが、お世話になりました。

矢野研修医（2017/6/5～30）

高齢者が多い、自宅が遠方で一人では通院が厳しいことなど、地域で問題となる点を現場で実感できる研修となりました。そのなかで、訪問診療・看護、診療所の重要性や終末期医療に対する方針決定・治療介入はこれまでの研修ではあまり経験できないことであり、多くのことを学びました。短い期間でしたが、先生方、スタッフのみなさま、本当にありがとうございました。

河本研修医（2017/6/1～7/28）

ひとりひとり異なる社会背景をもたれるなかで、患者さん、ご家族のご希望に添えるような支援を行っていくことの大切さを学びました。そのうえでチーム医療がいかに重要なものかも実感しました。退院後も患者さんと長く関わっていけるのが地域医療の楽しさであり、難しさでもあるのかなと思いました。この二ヶ月間、スタッフの皆さん、患者さん方にもあたたかく接していただきとても楽しく、実りある研修ができたと思います。

上本研修医（2017/7/3～28）

一ヶ月と短い期間でしたが大変お世話になりました。普段自分が研修している急性期病院と全く患者層が異なっており、また、提供する医療も大きく異なっていました。「お年寄りが元気に健やかに生活することを支える医療」というのは、とても魅力的であると感じました。将来、自分自身もこのような医療に携わりたいと思います。

手塚研修医（2017/8/1～28）

大学ではなかなか経験できない往診や診療所での診療、ケアマネージャーの皆さんとのカンファレンスなど初めてのことばかりでした。大変勉強になりました。また、休日には四国を存分に楽しむことができ、とても充実した一ヶ月でした。ありがとうございました。

杉本研修医（2017/8/1～31）

優しく丁寧なスタッフの皆さんに支えられ、無事研修を終えることができました。病気を治療して終わりの医療ではなく、その後の療養先や終末期の過ごし方など、患者さんに対して全人的な医療を実践することの重要性をしっかりと学ぶことができました。地域医療を通じて、患者さんやご家族と密に接することのできる貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

吉田研修医（2017/9/1～27）

一ヶ月間、大変お世話になりました。まだまだできないことが多く、ご迷惑をおかけしました。先生方からスタッフの皆さんまで積極的にサポートしていただき、やりたいことが次々にできました。これまでで最も研修しやすい環境でした。施設や介護などの点については、もう少し深く学べたらなお良かったと思います。ありがとうございました。

金本研修医（2017/9/1～29）

初めての土地で不安いっぱいだったのですが、みなさまのおかげで大変充実した楽しい一ヶ月となりました。病気を治すだけでなく、いろいろな場面で困っている患者さんを多職種で支えていると感じる機会がたくさんありました。この経験をこれからの診療に生かし、成長できるよう邁進していきます。またお世話になる機会があるかもしれませんがその時はよろしくお願いします。

中城研修医（2017/10/2～27）

今回の研修では、慢性期の患者さんや社会的背景を重視し、また、問題がなければ研修医の考えを優先していただき責任をもって研修できました。手技も積極的に行うことができ、スタッフの皆さんや地域の方々に非常によくしていただき、大変充実した一ヶ月でした。短い期間でしたがありがとうございました。

近藤研修医（2017/10/2～11/30）

二ヶ月間の研修でしたがあっという間でした。

そんな中でも、手技や症例は豊富にありたくさんさせていただきありがとうございました。訪問診療や診療所など普段と違う医療について学べ、貴重な経験をいかしてこれからは役立てていきたいです。お世話になりました。

鈴木研修医（2017/11/1～28）

一ヶ月間、お世話になりました。

訪問診療や施設での診療など経験させていただき勉強になりました。地域医療をしっかりと実感できる環境にあり、先生方も優しくコミュニケーションがとりやすかったです。全員が歓迎してくれ一緒にやっついこうという雰囲気が感じられて非常に過ごしやすかったです。ありがとうございました。

宮田研修医（2017/12/1～26）

大木研修医（2017/12/4～28）

この一ヶ月間で、病棟・外来・救急車対応のほかに手技もたくさんやらせていただき、とても満足のいく研修内容でした。特に往診では患者さんに密接した医療、また、退院後施設との連携がしっかりしていて、野村という地域ならではの患者さんに寄り添った医療を学ぶことができました。ありがとうございました。

深澤研修医（2018/1/4～26）

先生方をはじめ、スタッフの皆さんにとっても親切にさせていただき楽しく研修を送ることができました。地域の病院ならではの訪問診療、施設回診や外来など充実した一ヶ月となりました！訪問診療などで、患者さんの自宅に行って生活の様子を見ることで必要な支援を直に感じることができました。ありがとうございました。

門田研修医（2018/1/4～30）

今回の研修では、患者さんや家族と医療者の距離の近さを感じると同時に、実際にどのように医療者側が関わっているかを学ぶことができました。また、終末期の患者さんへの医療面でのアプローチや家族への対応など様々なことを勉強させていただきました。短い期間でしたがとても充実した研修ができました。お世話になりました。

清水研修医（2018/2/1～26）

例年のない寒さにも負けず、笑顔あふれる野村病院で充実した日々を過ごすことができました。

病気に対する治療はもちろん、患者さんの今後について多くのスタッフが関わって考えていく過程を実感できました。ここで学んだ“病気”を診ること、それ以上に“患者さん”を診る姿勢を忘れずこれからの診療に生かしていきたいです。

西研修医（2018/2/2～27）

短い期間でしたが大変お世話になりました。病棟や外来、診療所などで診療に携わり、地域に根ざした医療を学ぶことができました。研修医もひとりのスタッフとして扱っていただき、実際に自分の手を動かすことが多く、これまで研修してきたことを活かせる機会がたくさんありました。ありがとうございました。

総合診療専門医研修プログラム 「研修内容、抱負、地域医療への思い」

愛媛県立今治病院内科（愛媛大学総合診療専門医研修プログラム） 河野 佑典

2015年 愛媛大学医学部卒業

2016年 松山赤十字病院初期研修（アイプログラムたすきがけ）

2017年 愛媛大学医学部附属病院初期研修（アイプログラム）

2017年～愛媛大学地域医療学講座 後期研修開始（県立今治病院内科勤務）

はじめに

私はもともと愛媛大学医学部医学科の地域枠として入学して愛媛大学医学部附属病院のアイプログラムで初期臨床研修を行いました。初期研修期間が終わろうとして、周りの研修医が続々と入局先を決めていくなか、入局先を決められずにいました。そのとき、学生の時からお世話になっていた地域医療学講座の川本龍一先生のもとへ相談にいき、総合診療・家庭医プログラムを薦めていただき、昨年からは研修を開始しています。このプログラムというよりは愛媛大学地域医療学講座の特徴ですが、所属はしていても他の医局に掛け持ちで入局することも可能となっています。地域医療に貢献したいと思いつつも専門的な研修を受けたいという人、私のように専門をまだ決めていないが先に幅広く知識を身に着けたいと考えている人どちらにも適した講座です。

地域での研修について

地域枠の制度では初期臨床研修は愛媛大学医学部附属病院の初期臨床研修プログラムを行い、3年目以降（申請をすれば4年目から）松山市と大学病院以外で勤務することが義務付けられています。

同期の医師は3年目に大学病院や松山市内の病院を希望したばかりでしたが、私は3年目から愛媛県立今治病院での勤務を希望しました。それは地域医療に貢献しつつ、ある程度専門的な知識も身に着けたいという思いがあったこと、また南予出身であったため一度東予でも生活してみたいという思いもあったのも事実です(笑)。学生、初期研修医のときに県立今治病院で研修したことはなかったのですが、友人の口コミなども参考に希望したところ川本先生が快く手配していただきました。医局に入局しているとある程度医局人事の影響を受け、希望する病院で研修を受けるといったことは難しくなるかと思えます。また、私たちのように地域枠の”縛り”を受けているとさらに希望する病院に勤務することは難しくなります。そのような状況でありながら3年目から希望する病院に勤務できており寧ろラッキーだったと思えます。

現在、愛媛県立今治病院で内科医として勤務していますが、本当に充実した研修をさせていただいていると思えます。高血圧、糖尿病、高脂血などの外来で加療する **common disease** から、出血性胃潰瘍、癒着性イレウス、細菌性肺炎、うっ血性心不全など入院で加療する **common disease** などをみる事ができています。また、済生会今治病院と並び今治地区の地域医療を支える砦のような病

院であることから、急性閉塞性化膿性胆管炎による敗血症性ショックや経皮的補助人工心肺を必要とする急性心筋梗塞などの3次救急病院でみるような疾患もみることができています。

また、先に述べたように県立今治病院は今治地区の救急・地域医療を支える病院でありながら、県立中央病院と愛媛大学医学部附属病院から初期研修医を受け入れている教育病院としての面もあります。医学生や研修医が出入りし指導することは、より深く学ぶことにつながっており、さらに自分の知らない分野や最新の知見なども知ることができ、刺激になります。

そして、医療や教育だけでなく今治病院にきて予想外だったことは、先生方がそれぞれ研究を行い積極的に学会発表し、論文を執筆していることでした。地域医療といえば臨床メインとなり、医学生がくれば教育するという風にイメージをしていましたが、県立今治病院では研究面に関しても与えられた環境でできることを考えながら行っていました。私もテーマを与えていただき、導出18誘導心電図の研究内容を6月16日に日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で発表予定です。

最後に

今治市で1年間働いてきて、驚いたことに救急医療体制が想像以上に困窮していました。今治市は愛媛県第2の都市で、救急は輪番制となっています。しかし、救急受入れを行っていた病院の撤退で続いており、残された病院の負担が増大してきています。私は南予の病院へは何度も行かせてもらい南予の現状は知ることができていましたが、今治市のような大きな街でもこれほど医師不足が言われているとは思いませんでした。地域枠の医師ですと言うと県立今治病院の先生だけでなく開業医の先生方も期待しているとおっしゃいます。やはり松山市に医師が集中してしまっており、若い医師にもっと増えてほしいとどの地域も希望していることを実感しました。地域枠の医師だけでなく若い医師が積極的に地域で働きたくなるように環境を整えること、情報を発信することが必要だと思います。地域で働きたいと考えている、専門科を決めきれない医学生・初期研修医の方がこの文章を読んでいるならば、一度地域医療学講座の川本先生や私のところに話を聞きにきてみてください。いつでも連絡お待ちしております。

総合診療専門医研修プログラム 「地域のお医者さん」

西予市立野村病院内科（愛媛大学総合診療専門医研修プログラム） 赤瀬 太一

2015年 川崎医科大学医学部卒業

2017年 済生会今治病院 初期研修終了

2017年～愛媛大学地域医療学講座 後期研修開始（西予市立野村病院勤務）

総合診療・家庭医を目指すきっかけ

現在の医療はかなり細分化している状態であり各科専門領域の中でもその中にさらに細かく専門分野が分かれている状態になっています。総合病院で勤務するのであればそのような専門分野に特化した医療を行う方が患者様にとってメリットとなると思います。しかしすべての医療圏でそのような専門治療を行うことは不可能です。地域病院、医院などでは専門医療ではなくある程度医療の幅、循環器疾患、肺疾患、内分泌疾患、整形疾患など様々な領域をカバーする必要があります。それぞれの地域に適した医療の形があると思い、また私自身が将来基盤を置いて医療を施行する地域の背景などを考え専門的な医療ではなく医療の多くの範囲をカバーできる総合診療・家庭医を目指すことといたしました。

専門的な医療は学ぶこともできる

総合診療・家庭医を目指している中でもその中でも得意分野、専門的分野を中心に学ぶこともできます。なにか1つ自信の付く分野を身に着けていることは大切だと思います。現在私自身はまだ後期研修2年目であり得意分野、専門分野などと言える分野はありませんが、今後は消化器を得意分野などにできたらと考えております。

今していること

現在は西予市立野村病院で内科医師として勤務をさせていただいております。外来、救急、病棟、当直すべてはほかの上級医と同様にさせていただいております。しかし経験、知識共に少ないため上級医と同様の医療を行うことは不可能です。そのため毎日朝回診前にカンファを行い治療方針など相談し上級医と共に治療を行っております。上級医に気軽に相談できる環境で現在勤務をしています。

地域医療への思い

地域医療に関しては必要不可欠な医療と思っています。毎月患者様が外来に来られて基本的には状態は安定しており診察自体は数分で終わります。しかしその外来の中で普段の生活状態、介護、家族の思いなどまで1人1人聞いていきます。医師と患者、家族との距離が近いと思います。地域医療とは単に病気を見るのではなく患者、家族の生活全体を見ていくものだと考えます。そのため

地域のことを好きにならないとなかなか成立しません。西予市で勤務をさせていただいて1年と少ししか経過していませんが私自身西予市、住民が好きであり、そのため地域の人のために精一杯努力をしていきたいと思っています。地域と専門的な医療をつなげる役割になりたいです。

地域医療を行っていて抱負

現在西予市立野村病院で研修を行わせていただいております、西予市の医療に少しでも役に立てるように頑張るといことが今の抱負です。なるべく早く患者様、家族に信頼、頼られる、必要とされる存在になりたいと思っております。

今後の方針、スケジュール

現在総合診療・家庭プログラムの中の内科研修として西予市立野村病院で研修を行っております。今後も内科研修として野村病院で研修を行う予定です。その後小児科、救急科を各3ヶ月ずつ研修する必要があります。そのためその際は小児科、救急科が研修できる病院で研修をすることとなります。現在指導医と相談中です。また総合診療・家庭医専門医取得後のことに関してははっきりしたことは決まっておりますが、総合病院ではなく地域の病院、医院、診療所などで地域の人のために医療を行っていきたくと考えております。

愛媛大学総合診療・家庭医プログラムについて

総合診療プログラムに関して各県などで様々な研修プログラムがあります。また現在新専門医機構プログラムに変わるため私以降の総合診療・家庭医プログラムでは現在のプログラムとは多少の変化があると思います。しかし地域医療を中心に考えられている大前提は変わりがないと思います。地域医療は今後高齢化社会が進行していく中で特に重要となる分野であると考えています。認知症問題などで車社会が少しずつ変化し、また公共交通機関も過疎化に伴って廃止されていく中で病院まで来られない人がいます。そのため訪問診療などの重要性が増してくると考えています。プログラムの中では総合病院ではなく地域医療、訪問診療、診療所など研修が必須化されています。さまざまな医療に触れることができます。プログラム終了後の医療の幅、選択肢を持たしてくれると思います。

総合診療科としての取り組み

総合診療科 助教 菊池 明日香

愛媛大学医学部附属病院 総合診療科 2017 年度活動報告

●総合診療科 外来患者 統計

2017年4月1日～2018年3月31日までの期間内に、総合診療科を受診した患者の総計は391名（男性：129名、女性：262名）であった。そのうち初診患者は118名（男性：50名、女性：68名）であった。初診患者の年齢分布は図1に示す通りであった。

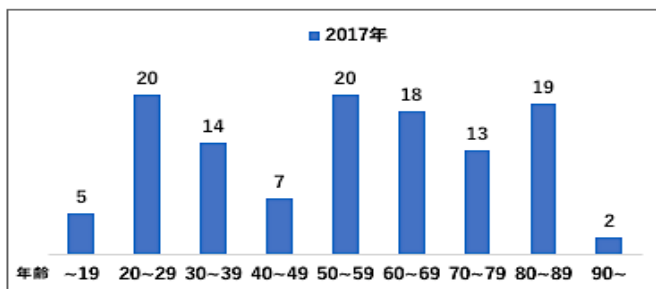


図1：2017年度
初診患者 年齢分布

新規患者の受診理由としては、全身（発熱・倦怠感）、消化器、筋骨格系、神経系が上位を占めており、最終診断は精神疾患、神経疾患、筋骨格系疾患の順に多かった。（図2,3参照）

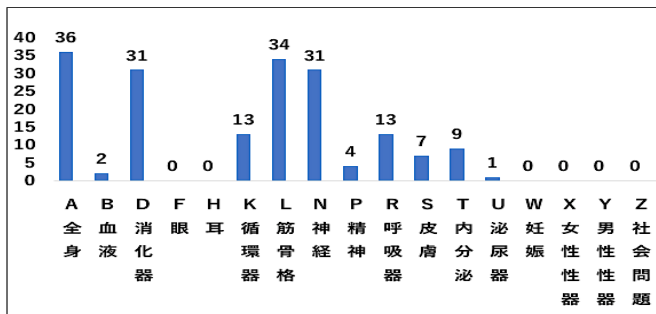


図2：2017年度
初診患者 受診理由

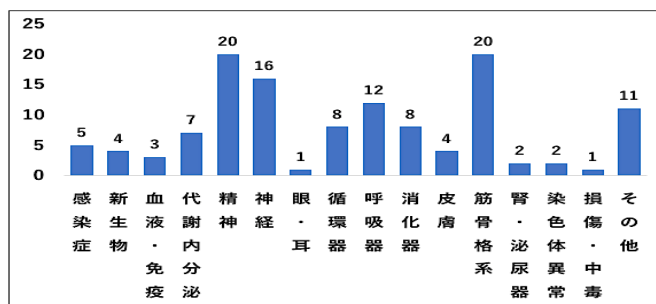


図3：2017年度
初診患者 疾病分類

なお、総合診療科のみで診断・治療まで解決に至った症例は全体の66.5%であった。

現在（2018年4月～）の外来担当表

月	火	水	木	金
菊池 明日香	熊木 天児	菊池 明日香	川本 龍一	二宮 大輔

平成 29 年度地域医療学講義内容

前期課程 場所：臨床第 2 講義室 7 コマ 6 時限：15:20－16:20

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
6 月 15 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
6 月 22 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
6 月 29 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
7 月 6 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	熊 木
7 月 13 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「地域医療における面接技法」	地域医療学	二 宮
7 月 20 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
7 月 27 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「臨床判断の基礎」	地域医療学	熊 木

後期課程 場所：臨床第 2 講義室 22 コマ 6 時限：15:20－16:20

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
10 月 12 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 1」	地域医療学	川 本
10 月 19 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 2」	地域医療学	川 本
10 月 26 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」	非常勤講師	大原 (川本)
11 月 2 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」	非常勤講師	加藤 (川本)
11 月 7 日火曜日	4 時限	地域医療の実践 「身体診察の基本」	地域医療学	熊 木
11 月 9 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	熊 木
11 月 16 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「多職種との連携」	地域医療学	川 本
11 月 17 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「予防医療活動」	地域医療学	川 本
11 月 24 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域における医療資源の活用」	地域医療学	二 宮
12 月 1 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	学部内非常勤講師	宮岡 (二宮)
12 月 7 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
12 月 8 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域での総合診療活動」	総合診療学	千 崎
12 月 14 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「在宅終末期医療」	地域医療学	川 本
12 月 15 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域医療におけるポリファーマシー」	地域医療学	川 本
12 月 21 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1」	地域医療学	熊 木
12 月 22 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「心のケア」	非常勤講師	山岡 (二宮)
1 月 11 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2」	地域医療学	川 本
1 月 12 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 3」	地域医療学	二 宮
1 月 18 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域医療における研究活動」	地域医療学	川 本
1 月 19 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「バングラデシュでの医療活動」	非常勤講師	宮川 (二宮)
1 月 25 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 4」	地域医療学	熊 木
1 月 26 日金曜日	6 時限	テスト	地域医療学	川 本

平成 29 年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）

日 時	曜	対 象	内 容	人数
4 月 20 日	木	第 69 回：地域枠 2 年生	診療科の偏在を考える	12
5 月 11 日	木	第 70 回：地域枠 3 年生	日本の世界の医療制度	7
5 月 25 日	木	第 71 回：地域枠 4 年生	臨床推論	10
6 月 8 日	木	第 72 回：地域枠 2 年生	超高齢化社会の処方箋を考える	10
6 月 14 日	木	第 73 回：地域枠 1 年生	卒後の配置とキャリア形成	19
6 月 28 日	水	第 74 回：地域枠 1 年生	勉強会のススメ	19
6 月 29 日	木	第 75 回：地域枠 3 年生	胸写を読む	9
7 月 6 日	木	第 76 回：地域枠 4 年生	臨床推論	9
7 月 13 日	木	第 77 回：地域枠 2 年生	地域を視る	9
7 月 20 日	木	第 78 回：地域枠 3 年生	地域における生活習慣病ーサルコペニア予防ー	4
10 月 12 日	木	第 79 回：地域枠 2 年生	医師のプロフェッショナルリズム	12
10 月 19 日	木	第 80 回：地域枠 3 年生	少子高齢化を考える	6
10 月 25 日	水	第 81 回：地域枠 1 年生	介護体験実習報告会	15
11 月 2 日	木	第 82 回：地域枠 4 年生	臨床推論	8
11 月 8 日	水	第 83 回：地域枠 1 年生	高齢者のケア	10
11 月 16 日	木	第 84 回：地域枠 2 年生	日本の医療制度	7
12 月 7 日	木	第 85 回：地域枠 3 年生	診療科の偏在を考える	8
12 月 13 日	水	第 86 回：地域枠 1 年生	プレゼンテーションの基本①	17
12 月 14 日	木	第 87 回：地域枠 4 年生	診断と治療の落とし穴	9
30.1 月 11 日	木	第 88 回：地域枠 2 年生	プレゼンテーションの基本②	3
1 月 17 日	水	第 89 回：地域枠 1 年生	生物・心理・社会モデル	13
1 月 18 日	木	第 90 回：地域枠 3 年生	愛媛県の若手医師の現状	8



第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿

	西予市立野村病院			久万高原町立病院 (宇和島市立津島病院)		
1班	三好 翔太	伊藤 恭	梨井 愛理奈	飯田 大輔	桑垣 詩織	小澤 茜
2班	武山 雄貴	亀井 健太郎	木村 圭那	井上 千華 (津島)	岡本 翔 (津島)	
	松本 夏鈴					
3班	土居 雄太	松岡 茉莉花	柏戸 滋晴	高林 明日香	藤本 拓也	安井 大貴
4班	関本 美月	遠藤 瞭一	三嶋 豪志	森實 あすか	小川 広徳	山本 真理子
5班	井上 伸	岸田 牧子	吉岡 史江	高瀬 慎也	三好 真綾	山内 雄策
6班	宮井 瑛子	大賀 慎也	深江 舜也	中川 友香梨 (津島)	岡市 司 (津島)	
	吉原 さつき					
7班	神山 雅喜	平田 友恵	斉藤 健志	柏谷 兼伍	福井 真衣子	吉松 佳祐
8班	岩田 麻里	桐野 由衣	吉川 彩	清家 廉	寺下 誠人	西川 直輝
9班	藤垣 有里	山内 美聡	榊 悠佑	中島 隆道 (津島)	小島 一展 (津島)	
10班	大下 一輝	沖田 光雄	石村 孝夫	奥村 彩	井上 奈美	
11班	川部 僚子	岩井 美幸		加藤 裕樹	渡邊 拓郎	竹本 大二郎
12班	盛田 興輔	矢野 真啓		上野 果住	松木 ひかり	萩原 遼太
13班	長井 敦	濃野 優	山下 卓人	宇都宮 果歩 (津島)	鈴木 遥香 (津島)	
14班	上杉 恭広	藤井 美名		藤井 摩耶	古谷 武大	内藤 宏貴
15班	神田 正敏	櫻井 裕子		岡本 全史	桧垣 知秀	岡澤 麻耶
16班	西野 雄貴	神 里帆子	村山 健太郎	湖城 桂	関岡 輝洋	
17班	松本 圭	山根 沙紀	小池 翔太	金川 宗寛 (津島)	石村 菜穂 (津島)	
18班	武田 将司	村上 佳史		田渕 諒介	岡田 真侑	小池 愛
19班	中田 俊輔	山本 遥加		勝間田 莉帆	和泉 翔太	毛利 晨佑

感想

- ・大学病院では経験できない医療ができた。・血圧測定や採血など手技を多く経験できた。
- ・多くの患者さんに直接関わられた。
- ・少子高齢化やそれに伴う問題について見直し、訪問診療などができた。



業 績

【原著】

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Senzaki K, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T.

Decreased oxidized low-density lipoprotein is associated with improved trunk flexibility in Japanese community-dwelling women.

Journal of Clinical Gerontology & Geriatrics. 2017; 8: 83-87.

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Senzaki K, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T.

Interaction between gender and uric acid on hemoglobin A1c in community-dwelling persons.

J Endocrinol Invest. 2017 Sep 25. doi: 10.1007/s40618-017-0760-5.

Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, Kumagi T.

Mildly elevated serum total bilirubin is negatively associated with hemoglobin A1c independently of confounding factors among community-dwelling middle-aged and elderly persons.

J Circ Biomark. 2017; 6: 1849454417726609.

Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T.

Interactive association of serum uric acid and total bilirubin with renal dysfunction among community-dwelling subjects.

Int Urol Nephrol. 2017; 49: 1439-1446.

Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, Kumagi T.

Alanine Aminotransferase and Total Bilirubin Are Synergistically Associated with Metabolic Syndrome Among Middle-Aged and Elderly Japanese Women.

Metab Syndr Relat Disord. 2017; 15: 407-415.

澤本篤志、秋山伸二、上本明日香、山崎翔太、新居田能章、川本龍一、古川美子.

学生主体の多職種連携ワークショップの実態と効果.

社会薬学. 36 : 71-77、2017.

Koizumi Y, Hirooka M, Abe M, Tokumoto Y, Yoshida O, Watanabe T, Nakamura Y, Imai Y, Yukimoto A, Kumagi T, Takeshita E, Ikeda Y, Hiasa Y

Comparison between real-time tissue elastography and vibration-controlled transient elastography for the assessment of liver fibrosis and disease progression in patients with primary biliary cholangitis.

Hepatol Res 2017; 47: 1252-1259

Kuroda T, Kumagi T, Yokota T, Azemoto N, Hasebe A, Seike H, Nishiyama M, Inada N, Shibata N, Miyata H, Kawamura T, Imai Y, Ueno-Toshimori A, Tanaka Y, Terao T, Imamura Y, Koizumi M, Yamanishi H, Ohno Y, Hiasa Y

Efficacy of chemotherapy in elderly patients with unresectable pancreatic cancer: a multicenter review of 895 patients.

BMC Gastroenterol 2017; 17: 66

Miyake T, Hirooka M, Yoshida O, Furukawa S, Kumagi T, Koizumi M, Yamamoto S, Kuroda T, Arimitsu E, Takeshita E, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y

Differences in the risk of fatty liver for onset of impaired fasting glucose according to baseline plasma glucose levels.

J Gastroenterol 2017; 52: 237-244

Ohno Y, Koizumi M, Nakayama H, Watanabe T, Hirooka M, Tokumoto Y, Kuroda T, Abe M, Fukuda S, Higashiyama S, Kumagi T, Hiasa Y

Downregulation of ANP32B exerts anti-apoptotic effects in hepatocellular carcinoma.

PLoS One 2017; 12: e0177343

Utsunomiya H, Yamamoto Y, Takeshita E, Tokumoto Y, Tada F, Miyake T, Hirooka M, Abe M, Kumagi T, Matsuura B, Ikeda Y, Hiasa Y

Upregulated absorption of dietary palmitic acids with changes in intestinal transporters in non-alcoholic steatohepatitis (NASH).

J Gastroenterol 2017; 52: 940-954

小泉洋平、廣岡昌史、越智裕紀、徳本良雄、武智 恵、平岡 淳、池田宜央、熊木天児、松浦文三、阿部雅則、日浅陽一

肝造影 MRI 検査の肝細胞相を用いた胆管描出と胆管近接肝細胞癌症例における仮想超音波の有用性

超音波医学. 44: 167-174、2017.

【総説】

川本龍一

高尿酸血症：メタボリックシンドローム

日本臨床 75: 1920-1924、2017.

熊木天児、大野芳敬、今村良樹、黒田太良、小泉光仁、日浅陽一

続発性硬化性胆管炎の診断

肝と膵 38: 575-578、2017.

【症例報告】

Azemoto N, Kumagi T, Koizumi M, Kuroda T, Yamanishi H, Ohno Y, Imamura Y, Takeshita E, Soga Y, Ikeda Y, Onji M, Hiasa Y.

Diagnostic Challenge in Pancreatic Sarcoidosis Using Endoscopic Ultrasonography.

Intern Med 2017; 57: 231-235

Ohno Y, Kumagi T, Imamura Y, Kuroda T, Koizumi M, Watanabe T, Yoshida O, Tokumoto Y, Takeshita E, Abe M, Harada K, Hiasa Y

Usefulness of laparoscopy and intraductal ultrasonography in a patient with isolated immunoglobulin G4-related sclerosing cholangitis.

Clin J Gastroenterol 2017; 11: 62-68

黒田太良、熊木天児、小泉光仁、畔元信明、大野芳敬、山本安則、竹下英次、藤山泰二、水野洋輔、日浅陽一

神経線維腫症I型に合併した無症候性十二指腸乳頭部神経内分泌腫瘍の1例

日本消化器内視鏡学会雑誌. 59: 2732-2739、2017

【学会発表】

第114回内科学会総会（2017年4月14-16日、東京都）

健常人における非侵襲的肝脂肪量測定の有用性

山田七海、小泉洋平、廣岡昌史、渡辺崇夫、吉田理、徳本良雄、古川慎哉、熊木天児、阿部雅則、日浅陽一

第103回日本消化器病学会（2017年4月20-22日、東京都）

HBV・HCV慢性肝疾患患者が受ける肝細胞癌サーベイランスが膵癌の診断に及ぼす影響

今村良樹、熊木天児、寺尾孝志、横田智行、畔元信明、田中良憲、木阪吉保、芝田直純、丹下和洋、行本敦、宮田英樹、西山麻里、黒田太良、小泉光仁、大野芳敬、石井浩、日浅陽一：愛媛胆膵疾患（EPOCH）研究グループ

第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会総会（2017 年 5 月 12-13 日、高松市）

愛媛大学医学部学生 of 診療科選択と男女差

川本龍一、二宮大輔、笠井誉久、千崎健介、楠木 智、大塚伸之、熊木天児
山間地域における終末期医療に関する意識調査
山手敦史、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第 60 回日本糖尿病学会総会（2017 年 5 月 18 日、名古屋市）

地域在住者において尿酸の HbA1c への影響は男女で異なる

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

第 90 回超音波医学会総会（2017 年 5 月 26-28 日、栃木県）

US-US volume を用いたコロナ濃染域焼灼の試み

今井祐輔、廣岡昌史、黒田太良、小泉洋平、吉田 理、徳本良雄、熊木天児、阿部雅則、
日浅陽一

第 9 回日本静脈経腸栄養学会四国支部学術集会（2017 年 6 月 10 日、西条市）

日本人地域在住者において LDL-C/HDL-C 比はインスリン抵抗性の最良の指標

川本龍一、二宮大輔、笠井誉久、千崎健介、楠木 智、大塚伸之、熊木天児

第 59 回日本老年医学会総会（2017 年 6 月 14-16 日、名古屋市）

地域在住者において血清尿酸値は握力の増加と関係している

川本龍一、二宮大輔、笠井誉久、千崎健佑、楠木 智、大塚伸之、熊木天児

第 107 回消化器病学会四国支部例会（2017 年 6 月 17-19 日、高知市）

Ponatinib による薬剤性膵炎を発症した 1 例

新居田一貴、今村良樹、黒田太良、小泉光仁、大野 芳敬、竹下英次、熊木天児、日浅陽一

第 48 回日本膵臓学会（2017 年 7 月 14-15 日、京都府）

愛媛県における自己免疫性膵炎の診療実態および IgG4 陰性自己免疫性膵炎の臨床的特徴

大野芳敬、熊木天児、横田智行、宮田英樹、田中良憲、多田藤政、村上英広、川崎敬太郎、
畔元信明、小泉光仁、黒田太良、今村良樹、日浅陽一

第 17 回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2017 年 11 月 18-19 日、南国市）

基礎配属学生による地域診断の試みー愛媛県サマーセミナーの報告

樋口 希、菊地聡太、須之内真琴、升 瞳碧、西田瑞希、宇都宮志織、二宮大輔、熊木天児、
川本龍一

【研究会】

第 4 回肝臓と糖尿病・代謝研究会（2017 年 5 月 20 日、名古屋）

NASH における小腸粘膜からの食事由来パルミチン酸の吸収動態変化と病態への影響

宇都宮大貴、山本安則、竹下英次、徳本良雄、多田藤政、三宅映己、廣岡昌史、阿部雅則、熊木天児、松浦文三、池田宜央、日浅陽一

第 12 回四国肝疾患研究会（2017 年 6 月 16 日、高知）

肝細胞癌における ANP32B の発現とアポトーシス、予後への影響

大野芳敬、小泉光仁、中山寛尚、渡辺崇夫、廣岡昌史、徳本良雄、黒田太良、阿部雅則、今村良樹、福田信治、東山繁樹、熊木天児、日浅陽一

第 166 回愛媛消化器疾患懇話会（2017 年 6 月 24 日、松山市）

胃穿孔をきたした膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）の 1 例

今村良樹、黒田太良、小泉光仁、大野芳敬、熊木天児、日浅陽一

第 13 回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム（2017 年 7 月 1 日、広島）

肝細胞癌での ANP32B によるアポトーシス制御、予後への影響

大野芳敬、小泉光仁、渡辺崇夫、廣岡昌史、徳本良雄、黒田太良、阿部雅則、今村良樹、熊木天児、日浅陽一

第 17 回日本プライマリ・ケア研究会（2017 年 7 月 1 日、松山市）

愛媛大学医学部附属病院における総合診療科外来の現

千崎健佑、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

総合内科医による「ヒフミルくん」の活用とその有用性

熊木天児

第 31 回肝類洞壁細胞研究会（2017 年 11 月 24-25 日、三重）

NASH における小腸粘膜からの食事由来パルミチン酸の吸収動態変化と病態への影響

宇都宮大貴、山本安則、竹下英次、徳本良雄、多田藤政、三宅映己、廣岡昌史、阿部雅則、熊木天児、松浦文三、池田宜央、日浅陽一

【講演会】

西予市老人保健施設つくし苑勉強会（2017 年 1 月 18 日、西予市）

終末期医療について

川本龍一

広島大学医学部講義（2017年1月24日、広島市）

地域医療における総合診療活動

川本龍一

高齢者生きがいデイサービス（2017年2月21日、西予市）

生きて逝く

川本 龍一

第7回中四国地域医療フォーラムプレ会議（2017年2月25日、徳島市）

愛媛大学医学部地域医療学講座の現状と課題

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

平成28年度地域医療医振興財団研究成果審査委員会（2017年3月6日、下野市）

山間地域における生活習慣病に関する研究

川本龍一、大塚伸之

平成28年度愛媛県東予地区病院指導医講習会・病院連携記念講演会（2017年3月7日、今治市）

地域志向型医学教育の実践と効果

川本龍一



田辺三菱製薬社内講演会（2017年3月10日、松山市）

地域におけるフレイル・サルコペニアへの対応

川本龍一

愛媛県介護支援専門員協会ステップアップ研修 in 南予（2017年3月11日、西予市）

高齢者の内科疾患の特徴

川本龍一

高齢者生きがいデイサービス（2017年6月12日、西予市）

脱水について

川本龍一

西予市立野村病院看護研究のための勉強会（2017年7月6日、西予市）

看護研究をするにあたって

川本龍一

愛媛大学第三内科同門会（2017年7月8日、松山市）

愛媛大学附属病院「総合診療科」設置にあたり

川本龍一

第20回徳島地域医療教育研究会（2017年7月15日、徳島市）

地域志向型教育

川本龍一

平成29年度 西予市在宅医療と介護フォーラム in 野村・城川（2017年10月28日、西予市）

住み慣れた地域で暮らし続けるために

川本龍一（コーディネーター）

家族の立場から（義父の介護体験より）

城川町：二宮洋子氏

看護支援専門委員の立場から（要介護支援について）

西予市社会福祉協議会本社 ケアマネ管理者：楠 千津氏

訪問看護師の立場から（「看取り」「がん」「難病」等支援について）

訪問看護ステーション東宇和 管理者：小川口淳子氏

歯科医師の立場から（訪問歯科診療について）

あかし歯科医院 院長：明石宣文氏



地域医療を考える（2017年10月19日、西予市）

「地域で取り組む高齢者医療ー野城地域における現状を踏まえてー」

二宮大輔

第7回地域医療再生セミナー（2017年11月13日、東温市）

地域医療学講座の活動報告

川本龍一

第33回土居地区社会教育懇談会（2017年12月9日、西予市）

愛媛県と西予市の医療の現状と対策

川本龍一

【座長】

川本龍一

第22回南予糖尿病研究会（2017年2月22日、宇和島市）

「食行動・睡眠習慣から始める糖尿病療養指導のコツ」

愛媛大学医学部疫学・予防医学講座准教授：古川 慎哉先生

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会（2017年5月13-14日、高松市）

P-014 小中学生に対する僻地診療所の地域医療教育の試み

浜田市国保診療所連合体あさひ診療所：佐藤 誠先生

P-015 医学生を地域医療実習に呼び込む point（初期研修医と比較して）

塩田病院：青木 信也先生

P-016 地域医療教育の内容変更による学生の理解・意識への影響の検討

新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座地域医療部門：小泉 健先生

P-017 地元高校生を対象にした医師体験講座を通じての考察

JA 新潟厚生連 上越総合病院 総合診療科：今西 明先生

P-018 ホームステイ型地域医療実習におけるホストファミリーの思いの調査

兵庫県立柏原病院：見坂 恒明先生

P-163 ICT を活用したへき地医師の学術活動支援

公益社団法人 地域医療振興協会 与那国町診療所：並木 宏文先生

P-157 都市型診療所における看護師のコンピテンシーとその構造-

宮城大学：大塚 眞理子先生

P-158 みどりヶ丘薬局におけるポリファーマシー実態調査と今後の課題

みどりヶ丘薬局：石井 不二子先生

P-159 魚沼医療再編は地域医療をどう変えたか 第2報 ～十日町診療圏～

新潟県立十日町病院：齋藤 悠先生

P-160 インターンシップとして海外からの薬学部学生受け入れに必要なこと

株式会社マスカット薬局：小川 壮寛先生

P-161 『矢追インパクト療法（YIT）』は変形性膝関節症に明らかに有効である

医療法人 西田医院：西田 正文先生

P-162 東京医科大学病院における非居住外国人患者に対する診療実態

東京医科大学病院 総合診療科：山口 佳子先生

南予自治医の会（2017年6月7日、宇和島市）

「糖尿病を進行させないための治療の実践～新しい治療薬を使用して～」

坂出市立病院 糖尿病内科部長：大工原 裕之先生

南予リウマチの会（2017年6月30日、宇和島市）

【症例提示】

「整形外科医からみた RA 治療について—症例報告—」

西予市立野村病院院長：守田 人司先生

【特別講演】

「RA 治療における多職種連携と地域連携」

道後温泉病院理事長：大西 誠先生

平成 29 年度愛媛県主催 地域医療夏季サマーセミナー（2017年8月19日、松山市）

「医療から見たまちづくり—各参加市町の医療とまち—」

自治医科大学と愛媛大学地域枠学生



自治医大糖尿病勉強会 in 愛媛（2017年9月9日、松山市）

「心血管疾患の予防と代謝系のコントロールの有効性」

自治医科大学卒後臨床研修センター教授：江口 和男先生

地域医療と糖尿病 Web 講演会（2017年10月3日、西予市）

「地域で支える糖尿病 病診医療連携—重症化予防対策事業と糖尿病サポーター制度—」

市立八幡浜総合病院内科：酒井 武則先生

地域医療を考える（2017年10月19日、西予市）

「地域で取り組む高齢者医療—野城地域における現状を踏まえて—」

愛媛大学大学院地域医療学講座：二宮 大輔先生

「動画で学ぶ認知症診断「と治療—地域における医療連携の実践—」

大分大学医学部神経内科学講座：木村 成茂先生

第 13 回愛媛軽症糖尿病懇話会（2017年10月20日、松山市）

「糖尿病治療における糖質・脂質と運動バランスを考える」

順天堂大学国際教養学部 グローバルヘルスサービス領域教授：田村 好史先生

講座関連の研究費

【研究費】

代表

財団法人地域社会振興財団

山間地域における生活習慣病に関する研究（2014年4月～現在）

川本龍一、大塚伸之、二宮大輔、熊木天児

平成 27-29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究 C）

地域志向性を評価する尺度の検証と活用に関する調査研究

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

化学療法を受ける切除不能進行膵癌患者に対する成分栄養剤エレンタール配合内用剤の予後に及ぼす臨床研究（受託研究 EA ファーマ）

熊木天児

協力

高齢者高血圧コホート研究（2004年10月～2018年12月）

川本龍一

Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study（2008年6月～現在）

川本龍一

EWTOPIA 75 試験（2010年4月～2018年12月）

川本龍一

その他

【教育活動】

地域医療学講座地域サテライトセンターでの実績

- 初期研修医（地域医療）2017年度 18名
- 後期研修医 2016年度（地域医療・総合医後期研修コース）1名

【授賞】

- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（川本 龍一）
- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（熊木 天児）

【委員会活動】

学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）：2010年度から
- 地域医療支援センター組織運営委員会（川本）：2011年度から
- 医学専攻教務委員会（川本）：2011年度から
- 地域医療推進委員会（川本）：2012年度から
- 大学院入試作問委員会（川本）：2015年度から 2018年度

学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999年度から
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999年度から
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005年度から
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005年度から
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009年度から
- 西予市立野村病院運営委員会（川本）：2009年度から
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度から
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度から
- 愛媛県地域医療支援センター運営委員会医師確保支援部会（川本）：2014年度から
- 済生会今治病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2017年度から
- 西予市地域医療対策検討委員会（川本）：2017年6月から
- 西予市立病院改革推進委員会（川本）：2017年8月から

マスコミ取材

巡回診療車導入に関する愛媛新聞記事

愛媛新聞 (2017/11/08)



広島県北部で庄原赤十字病院が運用している移動診療車（西予市提供）

【検査機器搭載】

へき地での医療確保を目的に、西予市は2018年8月に巡回診療車を導入する。検査機器などを搭載したマイクロバスで、無医地区となる見通しの惣川・遊子川の両地区から運用を始め、人口減少や医師不足に対応してエリアを拡大させる方針。市によると、無医地区解消を目的とした移動式診療施設は広島県北部で12年から運用。県内では、島嶼部で活動する社会福祉法人済生会の巡回診療船があるが、車両はない。巡回診療車導入に伴い、2018年7月末で惣川診療所（週2回診療、1日平均利用者16.4人）と遊子川診療所（週1回診療、6.5人）は廃止し、診療所と同等の診療日を維持する。年間約4千万～5千万円の収支改善を見込み、診療所建物更新が不要になることなどで生じる財源を、診療の質や機器の高度化につなげたい考え。市医師会や愛媛大大学院医学系研究科の協力を得て本年度から準備を進めていた。診療車には市立野村病院の医師や看護師らが乗り、公民館を待合室として活用。超音波診断装置や心電計のほか、血液検査結果をその場で判断できる分析装置も搭載する予定で、エックス線撮影や専門的治療が必要な場合は野村病院と連携して対応する。南海トラフ巨大地震などの大規模災害時の機動的活用も視野に入れる。市内には2カ所の市立病院と8カ所の診療所（歯科含む）があり、市は「診療所では常勤医不在の期間が生じ、診療収入減少により医療機器の更新もできないのが現状」と説明。「診療車導入により医療の質は向上すると考えている」とし、地元の意見を聞きながら他地区の切り替えも検討する。

編集後記

愛媛大学に地域医療学講座が設立され10年目を迎えました。設立された当初より本講座に対する期待は大きく、それに対してどれだけ応えることができたかは皆様の評価によります。幸い学内外でも一定の評価を頂き、無事に5年毎に寄附講座として延長して頂いております。これもひとえに関係者の皆様のお陰です。設立された平成21年に地域枠奨学制度による医学生が入学しました。今後の課題として1期生の活躍、キャリア形成が挙げられます。引き続き、将来の医療、特に県内の地域医療を担う若者たちの育成のため、今後も当講座としての役割を果たして行く所存です。つきまして、皆様におかれましても未来の地域医療発展のためにも、学生実習および研修医育成に引き続きご協力および温かいご支援を賜りたい次第です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

熊 木 天 児

愛媛県寄附講座

平成29年度事業報告書

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

愛媛大学附属病院総合診療科

平成30年6月発行

問い合わせ先

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川(代)

TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

西予市立野村病院

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村9-53番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938

久万高原町立病院

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万65番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121